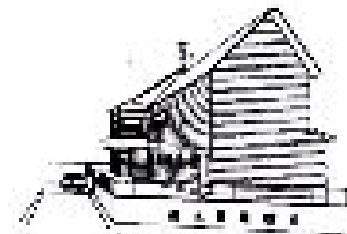


<今朝の聖書から>

20:25に“トマスは彼らに言った、「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」とあることに“そうだ”と思う時が多いのではないのでしょうか。あり得ないことや、単なるうわさに対して、そうすることは正しいでしょう。実は、教会に対してもそうなのです。何気なくやってきて、言われるままに、キリストを信じたという信仰者はおそらくいないと思います。沢山の教会で“洗礼準備会”とかその他の名前で、学びの時を持っています。キリストの救いについて説明しようと努力し、聞く方は“本当にそうか”と熟慮する期間を持つのです。救いへの道と、人生の充足に関する事柄ですから、とりわけ安易には考えなかったと思います。しかし、いま信じている理由を、従って・従ってと理屈だてて説明できるか、もう一度思い出したいものです。“いろいろとありました、そして主を信じました”という具合に、理由では結びつかない証(あかし)が沢山あります。なかには“復活の主がそこに立って話しかけて下さった”という経験を持っている兄弟もいます。そのことを本当だ嘘だ、と言ってもあまり意味はないでしょう。重要なのは、信じるということ、実際に信仰者はしているし、それによって励まされているということです。20:27にある“それからトマスに言われた、「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」”という御言葉がここに表れているようです。私たちだったら“確かな事だから信じなさい。見た事のみを信じなさい”と言われたほうが、理性的精神だと思うところがないのでしょうか。この箇所では主は“見ないで信ずる者は、さいわいである(20:29)”ということのために二つの権威を示されました。“聖霊を受けよ。あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう(20:22)”とあります。わたしたちは“従って”という根拠を、何時か聖霊によって与えられていますし、信仰者の力である“罪の赦し”の力も実は与えられています。復活の主とともに、この赦す力を発揮しましょう。

週報

2010年 4月 11日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042